

苗半作！カンキツ苗木の植え付けのコツ！

佐賀県果樹試験場 石本知香

みなさんの園では、みかんの苗木がなかなか育たないといったことはありませんか？昔から、「苗半作」という言葉があり、苗の出来で作柄の半分は決まるといいます。苗木の管理に手間をかければ、充実した根群、枝、葉を育成することができます。充実した樹では管理作業の効果がきちんと現れ、樹勢が維持され、マルチによる安定した品質向上効果も期待できます。また、そのような樹は、気象の急激な変化にも耐えることができます。

毎年のように気象の急激な変化が起こる今だからこそ、しっかりと充実した樹をつくるのが大切です。苗木定植の手順や定植後の管理についても一度確認してみましょう。

苗木の定植

○定植時期

苗木の定植は、園の土壌の物理性、化学性の改善や植穴準備を行った上で、発芽前の3月中旬から4月上旬頃に行います。

○定植の方法

1. 植穴準備

植穴は直径60 cm、深さ50 cm程度掘り、掘り上げた土に、溶りん(500g)、バーク堆肥など有機物(土壌容量に対して20%程度)、苦土石灰(2 kg)を混和します。また、植穴には事前に灌水しておきます。植穴の土が乾燥している場合は特に重要な作業です。

2. 苗木の調整

定植前に、一日程度苗木を水につけて給水させます。傷んだ根は切り返して丁寧にほぐし、植穴に根を広げて植えます。1年生苗木で先端の芽が輪状芽になっている場合は1芽下まで戻り切り返します。

3. 植え付け

苗木は深植えにならないよう注意し、接ぎ木部が土や堆肥などで埋まらないようにします。接ぎ木部からは、自根が発生しやすく、自根の生育が旺盛になると着花果が不安定になり、品質低下につながりやすくなりますので、十分気を付けてください。

4. 覆土と灌水

苗木に土を8割程度覆土し、たっぷりたまるくらい灌水をしながら、棒やホースでゆっくりと土を突き、土と根を密着させます。水が引かなくなってきたら、残りを覆土し、図1の写真のような水受けを作って十分に灌水を行います。

5. 誘引

樹のぐらつきや倒伏を防ぎ、根の早期活着を促すために支柱をたて、苗木を誘引紐で固定します。1年生苗木は、主幹を支柱に固定します。2年生苗木は、主枝候補の枝3本程度に支柱を立てて誘引します。固定に使用した誘引紐が苗木の成長に伴い枝に食い込む恐れがあるため、必ず枝の成長に合わせて調整してください。

6. 敷きわらやビニルマルチの被覆

土壌の乾燥防止や抑草のため、敷きわらやビニルマルチを実施し、根の活着を促します。



図1 苗木定植の手順

定植後の管理

○灌水

土壌の乾燥程度をみながら定期的に灌水を行います。近年は主要な発根時期にあたる5月の少雨や盛夏期に無降雨日が何日も続く傾向がありますので、積極的な灌水を実施してください。

○防寒・防風対策

風当たりの強い園地や、低温になりやすい園地では、寒風により落葉することもあります。苗木が落葉してしまうと発芽や発芽後の新梢伸長に影響が生じます。そのような園では、4月上旬頃まではあんどん栽培（写真1）を行います。



写真1 苗木のあんどん栽培（太良地区）

○新梢管理

1年生苗木では、接ぎ木部上の10～15 cmから発生した新梢は全て除去し、主枝候補となる新梢を5本程度残します。その後、残した春梢から出た新梢は、必ず1節1本を原則に芽かぎを行ってください。2年生苗木では、主枝候補の枝から出た新梢は先端の芽を残し、伸長させます。芽かぎの時期は発芽して3 cm程度伸びたら行います。摘蕾は、蕾が小豆大程になってから行います。蕾が小さいときに摘蕾すると、花が再発芽することがありますので、注意してください。充実した新梢にし、樹冠拡大をさせるためにはとても重要な管理になりますので、管理が遅れないように行います。

○施肥管理

表1に苗木・幼木での施肥管理について示しています。肥料切れを起こさないことが重要ですが、過剰な施用は根を傷めることになるので注意してください。

表1 苗木・幼木の施肥管理（1樹当たり成分量 g）

肥料成分	1年	3年	5年	施肥量の配分
窒素	90	150	180	各樹種の施肥時期と配分に準 ずる
リン酸	54	90	108	
カリ	54	90	108	

※植栽本数などの関係で、成木園の施肥量を超える場合は、成木園の施肥体系とする

ここに述べたことは、特別な技術ではありません。苗木の定植やその後の管理に手間をかけることで、根や葉がしっかり増え、成木になったときに一つ一つの管理に応えてくれる樹になります。剪定、防除等だんだんと忙しくなる時期ですが、計画的に行っていきましょう。